

1. 和歌山県 2. 三重県 3. 兵庫県 4. 奈良県

1. 気候が冷涼であり、夏場でも新鮮な高原野菜を生産するのに適しているため	2. 広大な土地を活かした大規模な機械化農業により、野菜の大量生産が可能だから	3. 大消費地である大阪市などに近く、鮮度が求められる野菜を効率よく出荷できるため	4. 平地が少なく傾斜地が多いため、稲作よりも野菜の段々畑が適しているため
---------------------------------------	---	---	---------------------------------------

1. 夏季は南東からの湿った季節風の
影響で降水量が多くなり、冬季は山
を越えた乾燥した風が吹くため晴天
の日が多い。

2. 夏季は北西からの季節風を山地が
遮るため降水量が少なく、冬季は暖
流の影響で湿った雪が降る日が多い
。

3. 一年を通じて季節風の影響を受け
にくいと降水量の変化が小さく、
常に温暖で湿潤な気候が続く。

4. 冬季はシベリア高気圧から吹き出
す湿った季節風の影響で雪が多くなり、
夏季はフェーン現象により乾燥
する。

1. 中部地方 2. 九州地方 3. 近畿地方 4. 中国・四国地方

1. 近畿地方の全ての府県の中で、大阪府だけが唯一、大規模な工業地帯や商業施設を有しているため。
2. 奈良県や滋賀県からの流入人口を増やすために、大阪府内の全ての公共交通機関の運賃が無料化されているため。
3. 大阪府が近畿地方の経済や交通の結節点であり、周辺の広い範囲が通勤・通学圏（大阪圏）となっているため。
4. 京都府や兵庫県には大学や企業がほとんど存在せず、教育や雇用の機会が大阪府にのみ集中しているため。

1. 阪神工業地帯の中核に位置し、古くから金属工業や機械工業などの製造業が発展してきた。
2. 広大な土地を活用した大規模な稲作が行われ、工業よりも農業の比率が極めて高い。
3. 中京工業地帯の中心であり、自動車産業の集積とともに全国有数の農業生産額を誇っている。
4. 温暖な気候を利用したピーマンやマンゴーの促成栽培が盛んで、農業生産額が工業生産額を上回っている。

1. 中部地方と近畿地方の両方の結びつきが強く、リアス海岸が発達した志摩半島で真珠の養殖が盛んである。
2. 中京工業地帯の中心地として知られ、自動車産業の集積地であるとともに、日本で最も人口が多い県の一つである。
3. 明治時代に茶の輸出で発展した清水港を持ち、富士山の麓に広がる牧之原台地での茶の栽培が有名である。
4. 日本最大の半島である紀伊半島の南側に位置し、黒潮の影響で温暖なため、みかんなどの果樹栽培が非常に盛んである。

1. 中部地方 2. 近畿地方 3. 中国・四国地方 4. 関東地方

1. 和歌山県 2. 愛媛県 3. 静岡県 4. 熊本県

1. 冬場の積雪量が非常に多く、スキーなどのスノーレジャーが盛んなこと
2. 新幹線の全列車が停車するような大規模なターミナル駅を有すること
3. 大規模な商業施設やテーマパークが集中していること
4. 世界文化遺産に登録された歴史的な建造物や街並みが存在すること

1. 山陽自動車道の龍野西インターチェンジが開通し、住宅地の面積が拡大するとともに、郵便局などの公共施設が設置された。
2. 防災上の理由から、地域内の小学校がすべて元の位置から1km以上離れた標高の高い山頂へと移転した。
3. 交通網の衰退により、かつて存在した鉄道や新幹線の駅がすべて消滅し、人口が周辺の都市へと流出した。
4. 大規模な減反政策の影響により、市街地であった場所のほとんどが水田へと作り替えられ、農村景観が復活した。

1. 愛知県は軽工業の割合が高いのに対し、三重県は伝統工芸品を主軸とした地場産業が製造品出荷額の過半数を占める。

2. 愛知県は内陸部での電子部品製造が中心であるが、三重県は沿岸部での造船業に特化した構造となっている。

3. 三重県は輸送用機械の割合が愛知県よりも高く、県内のほぼすべての製造品出荷額を自動車産業が占めている。

4. 輸送用機械が最大のシェアを占める点は共通しているが、三重県の方が食品や鉄鋼など幅広い部門が上位に含まれる。

答え合わせ・解説

問1	答え 1 和歌山県	和歌山県は日本最大の梅の産地として知られています。統計データによると、全国の収穫量の約67パーセント（約3分の2）を和歌山県が占めており、これは他の都道府県を大きく引き離す生産量です。温暖な気候や水はけの良い傾斜地が梅の栽培に適しているため、古くから大規模な生産が行われてきました。
問2	答え 3 大消費地である大阪市などに近く、鮮度が求められる野菜を効率よく出荷できるため	大阪府のような都市部では、農地面積が限られている一方で、背後に巨大な消費市場（大阪市など）が存在します。そのため、輸送距離が短い利点を最大限に活かせる、鮮度劣化の早い野菜を中心とした生産体制がとられています。これが都市近郊農業の背景にある合理的な理由です。
問3	答え 1 夏季は南東からの湿った季節風の影響で降水量が多くなり、冬季は山を越えた乾燥した風が吹くため晴天の日が多い。	三重県や和歌山県南部は太平洋側の気候に属しています。日本の夏は太平洋側から吹く湿った季節風の影響を強く受けるため、山地で上昇気流が発生して降水量が多くなります。一方、冬は大陸からの季節風が山脈を越える際に水分を失うため、太平洋側では乾燥した晴天の日が多くなるのが典型的な特徴です。
問4	答え 3 近畿地方	大阪、京都、神戸といった大都市が近接しており、これらを結ぶ私鉄やJRの路線網が非常に密に発達していることが背景にあります。人口密度が高く、通勤・通学における鉄道の利便性が極めて高いため、年間の旅客輸送量が膨大な数値となります。
問5	答え 3 大阪府が近畿地方の経済や交通の結節点であり、周辺の広い範囲が通勤・通学圏（大阪圏）となっているため。	大阪府は、古くから「天下の台所」と呼ばれるなど商業が盛んであり、現在も近畿地方における経済・情報の中心地です。大阪府を中心に鉄道や道路網が放射状に整備されているため、京都府や兵庫県、奈良県といった近隣の県から比較的容易にアクセスでき、広大な都市圏（京阪神大都市圏）を形成しています。このため、周辺地域で生活し、大阪府内で働く・学ぶというスタイルが一般的になり、拠点性が高まりました。
問6	答え 1 阪神工業地帯の中核に位置し、古くから金属工業や機械工業などの製造業が発展してきた。	工業生産額が非常に大きく農業生産額が極めて低いという特徴は、大阪府に見られる典型的な大都市圏の産業形態です。大阪府は阪神工業地帯の中心として、金属や機械といった重化学工業から中小企業の多様な製品製造まで幅広く発展してきました。一方で、都市化・宅地化が高度に進んでいるため、農地面積は非常に限られており、農業生産額は低い水準にあります。選択肢にある「自動車産業とともに農業も盛ん」なのは愛知県の特徴です。
問7	答え 1 中部地方と近畿地方の両方の結びつきが強く、リアス海岸が発達した志摩半島で真珠の養殖が盛んである。	伊勢志摩サミットが開催された三重県は、伊勢湾に面し、南部には複雑な海岸線を持つリアス海岸の志摩半島が広がっています。この地形を利用した真珠の養殖は世界的に有名です。また、三重県は近畿地方に含まれますが、中京工業地帯の一角をなすなど、愛知県を中心とする中部地方との経済的交流が非常に盛んな点も特徴です。
問8	答え 2 近畿地方	日本の地方区分は、歴史的背景や地理的なまとまりに基づいて分類されています。近畿地方は、古くから日本の政治・文化の中心地であった京都府と大阪府の2府を中心に、それを取り囲む三重県、滋賀県、兵庫県、奈良県、和歌山県の5県を合わせた「2府5県」で構成されます。三重県は経済的な結びつきから東海地方（中部地方）として扱われることもありますが、一般的な7地方区分では近畿地方に含まれます。
問9	答え 1 和歌山県	紀伊半島の南側に位置する和歌山県は、古くからミカン栽培が盛んな地域です。統計上、愛媛県や静岡県といった他の名産地を抑えて収穫量全国1位を維持しています。この地域は黒潮（日本海流）の影響を受けるため、冬でも比較的温かいことが栽培に適した要因となっています。
問10	答え 4 世界文化遺産に登録された歴史的な建造物や街並みが存在すること	フランスからの旅行者は日本の歴史や伝統文化に対する関心が非常に高いことが知られています。奈良県の「法隆寺地域の仏教建造物」や「古都奈良の文化財」、広島県の「厳島神社」、栃木県の「日光の社寺」、岐阜県の「白川郷・五箇山の合掌造り集落」のように、世界文化遺産がある地域は、日本の歴史的な文化財を求める旅行者の主要な目的地となっています。
問11	答え 1 山陽自動車道の龍野西インターチェンジが開通し、住宅地の面積が拡大するとともに、郵便局などの公共施設が設置された。	たつの市の約50年間の変遷を比較すると、山陽自動車道の整備や鉄道網の維持・充実に背景に、開発が進んだことがわかります。特に地形図の変化では、北西部のインターチェンジ設置や、南部の鉄道周辺、およびその間を結ぶエリアで住宅地が広がっている様子が顕著です。また、人口の増加や生活範囲の拡大に伴い、郵便局などの生活を支える公共施設も整備されています。なお、小学校の移転距離については地形図の縮尺（1:25,000）に基づき正確に測る必要がありますが、一般的に学校が山頂へ集団移転するといった極端な変化は、この地域の開発傾向とは一致しません。
問12	答え 4 輸送用機械が最大のシェアを占める点は共通しているが、三重県の方が食品や鉄鋼など幅広い部門が上位に含まれる。	三重県と愛知県はともに日本屈指の工業地帯である中京工業地帯に位置し、自動車を中心とした輸送用機械が産業の柱となっています。愛知県は輸送用機械への集中度が極めて高い（約55%）のに対し、三重県は輸送用機械が約34%で最大シェアではあるものの、食品、鉄鋼、化学といった多様な工業部門が一定の割合を保持しており、産業構成に広がりがあることが統計上の大きな特徴です。